

SOA対応ERPパッケージ選定のポイント

SOA（サービス指向アーキテクチャ）に対応することによって、ERP（統合基幹業務システム）パッケージが企業の情報システム基盤の機能も担うようになりつつある。本稿では、SOA対応ERPパッケージを選定する際にユーザー企業が留意すべきポイントがどのように変化しているかについて、社内の他のシステムとの関係も踏まえて考察する。

ERPパッケージの選定に当たって

システムの概要設計の段階でERPパッケージを選定する際の検討ポイントは多岐にわたる（表1参照）。パッケージの機能がニーズと合わなければ、業務をパッケージに合わせるか、パッケージを業務に合わせるためにカスタマイズするか、あるいはパッケージを用いずにスクラッチ開発を行うか、といった判断をこの段階でする必要がある。このためユーザー企業は自社がどの項目に重点を置いて評価するか優先順位を考えることが重要である。

これはSOA対応のERPパッケージでも同じだが、評価の重点が変わってくることに留意する必要がある。例えば、SOA対応ERPパッケージはサービス単位で機能を利用できることから、自社の現在の業務プロセスに対するERPパッケージの適合性については、より柔軟に考えることが可能になった。一方で、ERPパッケージの持つSOA基盤と、社内の他のシステムの持つシステム基盤との連携についてはより慎重に見極めることが求められる。

業務プロセスの観点からの選定ポイント

SOA対応ERPパッケージは、サービスを組

み合わせて業務プロセスを構築するため、必要な機能だけを導入することが容易になった。従って、ERPパッケージが自社のすべての業務プロセスをカバーしている必要は必ずしもない。もし自社のコア業務にすでに導入している既存システムもSOAに対応しているのであれば、サービス化された既存システムの機能とERPパッケージの機能を組み合わせて、ノンコア業務にのみパッケージの機能を利用するといった使い方もできる。

ERPパッケージに不足する機能をアドオン開発する場合でも、従来のようにパッケージが用意する開発環境を利用するだけでなく、別のサービスを組み合わせる新しい業務プロセスを構築するという選択も可能である。

このためユーザー企業は、既存の業務プロセスとERPパッケージが標準で提供する業務プロセスとの適合性よりも、パッケージが提供するサービスの機能や粒度（単位）に着目し、それらの組み合わせで自社の求める業務プロセスを実現できるかどうかを見極めることが重要になる。

システム基盤の観点からの選定ポイント

ERPパッケージのサービスと、他のシステ

表1 ERPパッケージ選定のポイント(例)

評価項目	ポイント
業務プロセス適合性	パッケージが想定する業務プロセスの自社への適合状況、網羅性
システム機能適合性	パッケージが備える画面・帳票などシステム機能の自社への適合状況、網羅性
会計基準・会計規則への適合性	会計基準・会計規則に対する適合状況 IFRS(国際財務報告基準)への対応状況
コード体系の適合性	主要なコード桁数、使用可能文字種などの制約 現行システムのコード体系やデータ構造に対する適合状況
セキュリティ要件への適合性	アクセス権限管理、データ暗号化、アクセスログ管理などの要件の適合性 権限マスターの管理を効率的に行う仕組みの有無(権限の一括設定、予約設定)
自社技術標準への適合性	自社の標準技術への適合状況(仮想化対応、対応OSなど) 自社の共通システム基盤(認証など)への適合状況
自社の他システムとの連携の容易性	パッケージが有するインターフェースの公開有無 連携方式、サイクル・タイミングの適合性 他パッケージ製品との連携を容易にするアダプターなどの提供有無
アドオン・カスタマイズの容易性	パラメータ設定やプログラム開発のためのツール類の整備状況 APIやデータベース項目定義の公開の有無 自社の保有技術や要員スキルとの適合性
ユーザーインターフェースの操作性・柔軟性	画面の操作性、画面カスタマイズの自由度・柔軟性 ヘビーユーザー向けの入力効率化の仕組みの有無 ユーザーの所属組織・役職別のメニュー・画面カスタマイズの有無
バージョンアップ対応	法制度改正などに対応するバージョンアップのスピード、コスト アドオン部分のバージョンアップ対応 予定メジャーバージョンアップのスケジュール、コスト
保守サポート体制	不具合などの問い合わせ対応、修正対応のスピード、コスト アドオン部分のサポート対応
実績	プロダクト別、ユーザー企業規模別、業種別の導入実績・シェア 参考となる事例の有無
プロジェクト体制	ユーザー側に求められるタスクとその実現可能性 SI(システムインテグレータ)ベンダーとの役割分担、契約形態
移行・教育	移行支援ツール提供の有無 必要な教育プログラム(開発者向け・利用者向け)の期間・費用
ライセンス課金体系	ライセンス課金体系の明確さ 自社の置かれた状況との適合性

ムのサービスを組み合わせる場合、ERPパッケージの持つSOA基盤と他のシステムの基盤を連携させる必要がある。

SOA対応ERPパッケージは複数のシステム間の連携基盤としての機能を担うようになっており、社内での他システムとの連携容易性や、自社の技術標準との適合性は従来よりも重視されなければならない。具体的には、WSDL

(Webサービスの利用方法を記述するための言語仕様)のような標準仕様に対応しているか、独自のAPI(アプリケーションで使用する命令・関数を定めた規約)を採用している場合はその仕様を公開しているか、他の製品との連携を容易にするアダプターなどの部品をベンダーが用意しているか、といった観点でERPパッケージを評価する必要がある。■